

国際交流 もりおか

Morioka International Relations Association



〔発行〕公益財団法人盛岡国際交流協会 〒020-8530 岩手県盛岡市内丸12番2号 盛岡市役所別館7階
 〔TEL〕019-626-7524 〔FAX〕019-622-6211 〔URL〕http://www.mira-morioka.com/ 〔E-mail〕info@mira-morioka.com



盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携 35周年

35周年を迎えるにあたり行われた取組を紹介します

令和2年度は大きな変化の年となり、1985年5月23日に姉妹都市提携を結んだ盛岡市とカナダ・ビクトリア市の35周年を祝う訪問団による相互の行き来も中止となってしまいました。

しかしこのような状況下でも、様々な実りある交流が行われましたので一部ご紹介します。

1つ目は株式会社ペアレン醸造所様の取り組みです。9月15日に、盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年を記念した特別なビール「スペシャルクラシック」が発売されました。同月26日には発売を記念したセレモニーも行われ、ビクトリア市長からもお祝いの言葉が贈られました。両市の誇る地ビール文化による交流が発展し、皆様の食卓が異国のビールでにぎやかになる日は近いかもしれません。



記念ビール「スペシャルクラシック」



栗田研究室のみなさん

2つ目は岩手県立大学の栗田研究室の皆様との取り組みです。学生が中心となり、ビクトリア市のアーティストと日本のアーティストによる展示会や、キックオフイベントとして開催された「ビクトリア疑似体験」では、栗田教授によるビクトリアで生活したことで得られた貴重な体験談や、両市を繋ぐ鮭(Salmon)の文化を交えた講演が行われました。

ビクトリアではファーストネーション(先住民)の文化を尊重しており、盛岡市にあるトーテムポールはその文化を代表するものです。また市役所に専属のアーティストがいるなど、芸術に深い理解と関心があるビクトリア市。芸術と文化の薫るまち盛岡との共通点は尽きません。

今年度は両市の行き来が制限されたからこそ、新たな交流の形がいくつも生まれた特別な年になりました。来年度はどんな交流ができるでしょうか。

盛岡城跡公園内のトーテムポール



盛岡市・花蓮市友好都市提携 1周年記念式典を開催

1周年を記念し花蓮市内の公園に記念碑が建立されました！

記念碑「両相好」
銀:盛岡市
白:花蓮市

《式典オンライン中継の様子》



盛岡市と台湾・花蓮市が友好都市提携を結んでから1周年を迎えたことを記念して、花蓮市では市内の公園内に記念碑を建立しました。「両相好(リャンシアンハオ)」「双方良し」と名付けられた記念碑は、向かい合う盛岡市と花蓮市が抱擁を交わす瞬間を表しており、出会った瞬間の嬉しさや喜びが伝わってくる作品です。

花蓮市では11月26日に1周年と記念碑建立を祝う記念式

典が開催され、花蓮市魏市長を始め多くの来賓が参加しました。盛岡市は現地を訪れることはできませんでしたが、オンライン中継の画面を通じて式典に参加し、記念碑の完成を共に祝うことができました。

記念碑完成のお祝いに、盛岡市から花蓮市に贈った盛岡りんごを、花蓮市の魏市長が一口かじって「おいしい！」と伝えてくれた瞬間は、数千キロも離れた海の向こうにいることを忘れさせる、とても印象深いシーンでした。

令和2年度下半期のイベント！

下で紹介しているイベント以外にも、「2020 ワン・ワールド・フェスタ in いわて」でのパネル展示(令和2年11月)や、「英語通訳講座」のオンライン開催(令和3年3月)なども行いました。



《神妙な面持ちで座禅を組む参加者》

日本文化体験講座－座禅－

多くのイベントや講座が中止や延期を余儀なくされている中、10月3日(土)にフィジカルディスタンス(物理的距離)、換気、時間の短縮など感染予防対策をしながら、報恩寺にご協力いただき坐禅講座を開催しました。

当日は6か国以上の国籍の方にご参加いただき、コロナ禍においても、多国籍市民の皆さんと、固定観念や価値観を取り除く「瞑想」の時間を共有することができました。

キッズ・レッツ・プレイ

市内の保育園の子どもたちに、外国籍講師との交流を通じて異文化体験をしてもらう「キッズ・レッツ・プレイ」ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、開催を予定していた6園中3園のみでの開催となりました。活動当日は、講師がスライドを使いながら自身の国の様々な文化を紹介、そのあと母語(今回はタイ語)で子どもたち一人一人の名前をカードに書いてプレゼントしました。子どもたちは普段目することのない外国の文字に大喜びでした。また子どもたちから講師に歌のプレゼントがあったりと、距離を感じさせない心温まる交流が見られました。



《タイについて教えてもらったよ！》



《衣装してやる輪投げは一味違う楽しさ》

ハロウィーン交流会

10月31日(土)に開催された「MIRA ハロウィーン交流会」には、総勢22名の参加者が思い思いの仮装姿で参加しました。参加者はハロウィーンの成り立ちについて学んだ後、盛岡城跡公園まで練り歩き、おもちゃの目玉をスプーンに乗せ、落とさないようにしながら行うルー「アイボールレース」や、「カボチャの重さ当てクイズ」等で大いに盛り上がりました。初対面の参加者も多かったのですが、国籍や言語や年齢に関係なく、参加者全員が盛岡城跡の美しい秋の景色を背景に、思い出に残るひと時を過ごすことができました。

生活オリエンテーション

盛岡市資源循環推進課の協力を得て、説明を2回に分けるなど感染症対策を講じながら、盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校の留学生に向けて開催しました。例年の生活オリエンテーションは留学生の入学時期に合わせ4月に開催し、ゴミの出し方・分別の仕方を中心に説明しています。今年度は新型コロナウイルス感染症により入国制限が続いている影響で、12月開催となったことから、季節柄、石油ストーブの使い方や水道の凍結についての説明も併せて行いました。初めての盛岡での暮らしに密着した生活情報をお届けできました。



《実物を使ってゴミの出し方を勉強中！》



《「ニイハオ」の発音猛特訓中！》

中国語入門講座

中国語を初めて学ぶ方を対象とした中国語入門講座(計4回)を、令和3年1月から2月にかけて上田公民館にて開催しました。「中国語で自己紹介できるようになろう！」を合言葉に、約10名の受講者が積雪二毛負ケズ、難解な発音二毛負ケズ、最後の発表会まで頑張りました。ネイティブスピーカーによる中国文化紹介のコーナーもあり、受講者の皆さんには中国語と中国文化の面白さを感じていただけたと思います。

Foreign Friends in MORIOKA

岩手大学で学んでいる留学生 3 名に、盛岡で感じた事を教えてもらいました

「盛岡で心に残っている出来事」

エルデネバートルさん(モンゴル出身)



盛岡での出来事で心に残っていることはたくさんありますが、中でも昨年10月の岩手山登山は忘れられない思い出です。

岩手山には留学生の友人と登りました。山の景色、眺めは言葉が出ない程素晴らしく、山頂にたどり着いた時の達成感も最高でした。しかし下山の際、一人の友人の足が痛くなり歩けなくなってしまい、更に持参した懐中電灯の電池も無くなるというハプニングに見舞われたのです。途方に暮れていた時、大阪から来たという登山ベテランの方が私達の困っている様子に気づき、最後まで一緒に下山してくれました。

岩手山という憧れの山に登頂できたこと、そして見ず知らずの方の優しさに助けられたこと、この二つにより岩手山登山は本当に特別な思い出になりました。今でも岩手山を見るたびに特別な親近感を感じています。

「盛岡で驚いたこと」

バトニャクトさん(モンゴル出身)



今は盛岡での生活にもすっかり慣れましたが、2016年に初来日した際、驚いたことをいくつか紹介したいと思います。

1. ゴミの分別方法が細かく決まっていること。
2. あいさつの種類がたくさんあること。特に学生寮でのあいさつ「オス！」には驚きました。
3. 日本の大学の実験室は実験専用であること。モンゴルの大学では実験室と学生用室が一緒になっています。
4. 街にゴミが落ちていないこと。皆がゴミを持ち帰っているので街がきれいなんですね。
5. ラーメンの量がとても多い事。でも完食(笑)!
6. からしの味。からしを初めて口にした時は、想像していなかった味と辛さに本当にびっくりしました。今では日本の食べ物は納豆からホヤ寿司まで何でも食べられるようになりました。

「盛岡に来て難しいと感じたこと」 フーンさん(ベトナム出身)



盛岡に来たばかりの時、難しいと思ったのはバスの利用方法です。まずバスに乗車する際、まさか後ろのドアから乗るとは思わなかったのととても驚きました。また運賃の支払い方法ですが、ベトナムではバスには必ず車掌がいて、チケットは乗車後に車掌に行先を告げて買うか、または販売機で事前に目的地分までを買っておくシステムです。盛岡のバスのように、最後に運賃を確認して支払うシステムには馴染みがなく、最初はとても難しく感じました。また車中のアナウンスも最初は聞き取れず、目的地に着いたことに気づかず乗り過ごすことが何度かありました。このようにバスで困ったことは何度かありますが、その度に周りの日本人が助けてくれました。

今では盛岡のバスにも大分慣れ、毎日のように利用していますが、道の両側にバス停がある場合、どちら側に自分の行きたい方向に行くバスが停まるのか、今でも分からなくなることがあります。このため各バス停に行先がはっきり分かる表示があればいいなあと思います。また、盛岡を訪れる外国人にもっと気軽にバスを利用してもらうためには、英語での車中アナウンスや英語での掲示板表示があると良いのではないかと思います。

【お知らせ】 会員募集 & 事業補助金

■令和3年度賛助会員を募集します。

当協会主催の講座等への優先申込や参加料の割引が受けられます。 年度会費: 個人 1口 1,000円 団体 1口 10,000円

■令和3年度国際交流事業補助金交付制度 申請締め切りは、5月7日です。

「世界に開かれた魅力あるまち・盛岡」のため活動する団体を支援します。国際交流等を行う盛岡市内の民間団体に補助金交付する制度を設けています。

詳しくはホームページの「助成・支援」をご覧ください。ご不明な点は、事務局までお気軽にお問い合わせください。



Let's COOK!

世界の料理をオンラインで紹介!



ホームページ



フェイスブック



インスタグラム

今年度の異文化理解講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインで料理講座を行いました。盛岡市在住の外国籍市民を講師に迎え、「家庭で作れる」、「盛岡でも手に入る食材」をモットーに、本場の料理をご紹介いただきました。動画には、講師の出身国についての簡単な紹介や料理の作り方の他に、講師へのインタビューも盛り込みました。初めての「オンライン」という形式に不慣れな部分もありましたが、「タイ料理」、「ベトナム料理」、「モンゴル料理」、「ネパール料理」を、4回にわたり紹介することができました。このオンライン料理講座は、協会のフェイスブックとInstagramで現在も視聴できます。



協会ではホームページ、フェイスブック、Instagramの3種類の SNS 媒体を使用して、協会情報やイベント告知等の情報発信を行っています。ホームページでは協会情報の他に、生活情報誌「もりおかガイド」や機関紙等をご覧いただけます。また、フェイスブックとInstagramでは、市民の皆さんに知っていただきたい情報(やさしい日本語や防災等)や、海外の文化紹介や料理のレシピなど、国際交流に繋がる情報を随時掲載しています。ぜひ、本ページ右上の QR コードスキャンのうえ、協会アカウントをフォローしてください(フォローいただくと、Instagram、フェイスブックの最新情報が自動的に届きます)。



【第1回 1月16日】
講師:パスさん、ミントさん
出身:タイ
料理:イカカレー炒め他



【第2回 1月23日】
講師:フーンさん
出身:ベトナム
料理:イカの塩炒め



【第3回 1月30日】
講師:エルデネバートルさん
バトニャフトさん
出身:モンゴル
料理:ひき肉入り揚げパン他



【第4回 2月5日】
講師:レカさん
出身:ネパール
料理:バターとナッツ入りおこわ他

Let's EAT!

世界の料理を給食で!

こんなところにも国際交流が!



盛岡市内の多くの小学校の給食メニューに、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック応援メニュー」として、県内各地のホストタウン相手国の料理が登場しました。ホストタウンとは、海外のオリンピック選手が事前キャンプや大会直前の調整を行う都市のことです。盛岡市はカナダとマリのホストタウンです。県内では他にも紫波町や野田村、遠野市などがホストタウンになっています(他にもあります)。

この給食を通じて子どもたちは世界とのつながりを感じ、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じられたのではないのでしょうか。

『目指せ! 次世代の新渡戸稲造!』



カナダ給食



- ホストタウン:盛岡市、紫波町
- 相手国:カナダ
- メニュー:キャロットピラフ
鮭のメープルマスタード焼き
バイクドビーンズ
押し麦のスープ
メープルマフィン

- ホストタウン:野田村
- 相手国:台湾
- メニュー:
干焼魚片(白身魚のチリソース)
炒米粉(ピーファン炒め)
蛤仔汤(あさりと大根のスープ)
杏仁豆腐(杏仁豆腐)

台湾給食



給食の写真は太田東小学校よりご提供いただきました。ありがとうございました。